

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	ライフサポートセンターなごみ園		
○保護者評価実施期間	2025年1月27日 ～ 2025年2月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年1月27日 ～ 2025年2月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	2025年1月10日 ～ 2025年2月15日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	4	(回答数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年2月16日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者、訪問先からご理解とご協力をいただけていること	・顔の見える関係づくりを大切にしています。 ・訪問先からのフィードバックを積極的に受け入れ、改善点を反映するようにしています。こどもの状況や支援方法に対する訪問先の意見を大切にし、実際に支援に反映させるよう努めています。	・今後も訪問先との連携をさらに強化し、こどもたちがよりよい環境で成長できるようサポートしていきます。例えば、定期的に情報交換を行い、支援内容や状況の確認を行うことで、常に適切な支援が行われるよう努めます。また、今後も訪問先と一緒に取り組むべき課題を共有し、解決策を模索していきます。
2	訪問支援の目的やプログラムの説明を丁寧に行うことを心掛けていること	・こどもの状況や成長に応じて支援内容を適宜見直し、より効果的な支援を提供できるよう努めています。 ・訪問支援の意義や期待される効果について、こどもや保護者に分かりやすく説明できるように努めています。	・訪問支援後、保護者とのフィードバックの機会を増やし、こどもの変化や課題について共有したいと思います。 ・訪問支援開始前に、こどもや保護者と具体的なゴールや希望をしっかりと確認する機会を設けていきたいと思います。
3	共感的な支援ができるように心がけていること	・日々のこどもの様子を丁寧に伝え、保護者の悩みや不安に寄り添いながら、共に解決策を考える姿勢を持つことを大切にしている。	・こども一人ひとりの気持ち、保護者の気持ちに寄り添えているか、支援の振り返りを定期的に行っていきます。 ・訪問先の思いや工夫を取り入れながら、協働的に支えていきたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・緊急時の対応を訪問先施設と連携し、実践すること	・緊急時における情報の伝達方法が不十分である場合、情報が遅れる可能性があります。	・こどもや保護者、職員が緊急時に即時に必要な情報を受け取れるよう、メールやアプリなどの迅速な情報伝達ツールを利用する。また、事業所と施設間での連絡体制を再確認し、緊急時でも迅速に情報が伝わる体制を整える。
2	・家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族向けの研修会、情報提供の機会が十分に実施できていないこと	・研修会などの実施、案内、定期的な情報提供が行われていない、もしくは情報の伝達方法が不十分な場合が考えられます。	・情報提供については、これまで以上に充実させていきます。対面以外にも電話やアプリなど複数の手段を使って、家族に有益な情報を定期的に提供し、家族が支援内容や活動状況について常に把握できるように工夫します。
3	・こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明し、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応	・相談窓口の存在や利用方法が一度だけの説明で終わってしまっていることがあります。	・相談窓口の周知を一度限りのものにせず、定期的にフォローアップを行い、家族が実際に相談しやすいようにします。例えば、定期的に保護者会で相談窓口について再度説明する機会を設けたり、繰り返し案内を送信したりします。こうすることで、家族の方々がより気軽に利用できるようにします。